

8月以降の気象経過

◆ 8月は高温・多照傾向

日平均気温は上旬が平年差+0.3℃と平年並、中旬は平年差+2.8℃、下旬は平年差+2.1℃と高くなりました。日照時間は上旬が平年比110%、中旬は平年比144%、下旬は平年比130%と平年に比べて多くなりました。降水量は上旬が平年比79%、中旬が平年比30%と少なくなり、下旬は平年比125%と多くなりました。

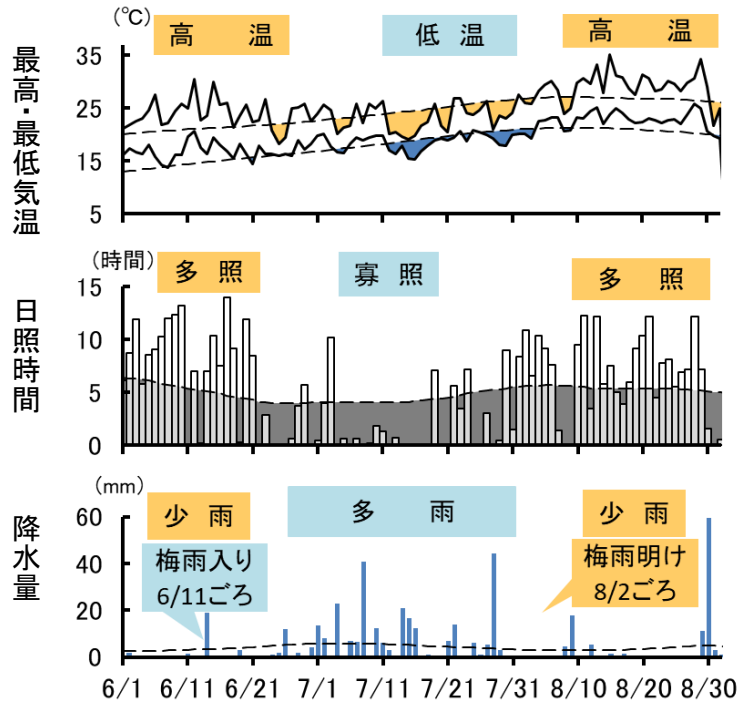


図1 6月以降の気象経過(アメダス石巻)

調査ほの生育状況(8月30日)

㎡当たり分枝数は平年並～多い傾向。

タンレイ(水沼) 6/13播種



ミヤギシロメ(小船越)

6/5播種



タチナガハ(蛇田) 6/19播種



タンレイ(広瀬) 6/8播種



ミヤギシロメ(牛田)

6/16播種



表1 調査ほの8月11日及び9月1日調査結果

品種 (作型) 地点名(旧市町)		播種日 (月/日)	8月11日調査				9月1日調査			
			主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数		主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数	
					(本/本)	(本/㎡)			(本/本)	(本/㎡)
タンレイ (普通) 広淵(河南)	本年	6/08	68	14.3	2.0	32.6	71	14.8	2.7	44.3
	前年差・比	-18日	+36	+4.8	+1.8	1293%	+28	+2.8	+0.5	135%
	平年差・比	-8日	+17	+1.4	+0.1	122%	+14	+1.0	+0.1	121%
タンレイ (麦あと) 水沼(石巻)	本年	6/13	55	12.4	2.3	36.9	61	13.0	2.7	44.4
	前年差・比	-4日	+3	+0.8	+0.9	219%	-1	-1.4	-0.5	110%
	平年差・比	0日	-5	-0.5	-0.5	96%	-6	-0.9	-0.6	99%
タチナガハ (麦あと) 蛇田(石巻)	本年	6/19	46	11.9	2.1	29.8	56	12.9	3.8	53.2
	前年差・比	+11日	+2	-1.2	+0.6	145%	+6	-1.0	+1.6	181%
	平年差・比	+5日	-7	-1.4	+0.2	135%	-6	-1.6	+1	178%
ミヤギシロメ (普通) 小船越(河北)	本年	6/05	62	13.4	3.3	33.6	77	15.0	4.7	48.7
	前年差・比	-34日	+39	+6.8	+2.6	509%	+25	+2.0	+2.0	170%
	平年差・比	-17日	+6	+1.1	+0.8	143%	-6	-0.7	+1.0	135%
ミヤギシロメ (麦あと) 牛田(桃生)	本年	6/16	68	11.7	2.0	35.4	110	14.8	3.6	62.2
	前年差・比	-9日	+16	+0.1	-0.3	172%	+16	-1.4	-0.8	160%
	平年差・比	-5日	+14	-0.2	+0.1	168%	+22	-1.3	-0.1	157%

※1 平年値：H27～R1の5か年平均。

※2 「-」は早い、短い、少ない、「+」は遅い、長い、多いを示す。

- ◆ 9月1日調査結果では、主茎長は広淵タンレイと牛田ミヤギシロメでは平年を上回っていますが、水沼タンレイ、蛇田タチナガハ、小船越ミヤギシロメでは平年を下回っています。
- ◆ 9月1日調査結果では、主茎節数は広淵タンレイを除いてすべてのほ場で平年を下回っています。
- ◆ 9月1日調査結果では、㎡あたりの分枝数は概ね平年並～平年を上回っています。

今後の管理

◆ 排水対策

- ◎ 今後も、排水溝や明きよの点検・整備をするとともに、大雨が予想される場合には、地表排水の効果を高めるために、枕地の畦を切って溝を作り、排水溝につなげましょう。

◆ 雑草対策

今年は

- ・播種後の乾燥によって土壌処理剤が効果を発揮しにくかった
- ・7月の降雨によって中耕培土の実施や茎葉処理剤の散布が難しかった

以上の点から雑草が多い傾向にあります。

- ◎ 9月以降多くの雑草が種子をつけ始めるため、イヌホオズキやアレチウリなどの難防除雑草の多いほ場では、早めに除草を行いましょ。
- ◎ タデ類やアメリカセンダングサ、シロザ、イヌホオズキなどの大型雑草は、コンバイン収穫時に汚粒の原因となります。雑草が種子を作らないうちに手取り除草を行いましょ。



タデ類



シロザ



イヌホオズキ

◎ 大豆落葉終期～収穫14日前までは「つり下げノズル」や「万能散布バー」を利用したラウンドアップマックスロード(非選択性除草剤)による雑草茎葉散布(大豆の茎葉・莢に直接かけないように散布する方法)が可能ですが、大型雑草は茎や果実の水分が低下しにくく、汚粒の原因となる場合があるので、手取り除草を行いましょう。

◆ 病虫害対策

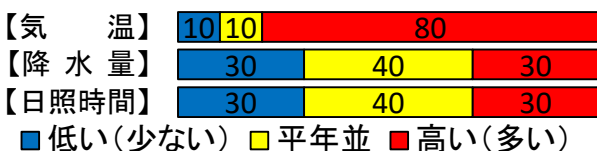
◎ べと病の発生量は「平年並」の予想です。発生が多い場合には、防除を行いましょう。また、べと病菌は罹病植物上で卵胞子を形成して越冬するので、発生の多少に関わらず、大豆の残さを深くすき込んで、次年度以降の発生を抑制しましょう。

東北地方 1か月予報 (9/5～10/4)

仙台管区气象台 9月3日発表

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

○1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



○週別気温経過の各階級の確率(%)

